

農政時流

第24号 / 平成23年 1月 1日発行
 宮城県農業会議
 宮城県担い手育成総合支援協議会
 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
 TEL / 022-275-9164
 E-MAIL / 04miyagi@nca.or.jp

〈主な内容〉

- ②「TPP交渉への参加反対等を決議」
- ③主張 “みやぎの食料自給力向上” をみんなで!!
- ④県担い手協議会コーナー
- ⑥元気みなぎる みやぎの農業に向けて
- ⑦食料・農業・農村の危機突破に向けて
- ⑧地域おこしの風



●次代を担う若者たち●

「我が子のためにイチゴ作りに頑張りたい!!」



野蒜海岸の初日の出と凧揚げ
(東松島市観光物産協会提供)

石巻市広瀬

くろぬま
黒沼

まなぶ

学 さん(23)



学さんは、農業実践大学校園芸学部を卒業後、県農業・園芸総合研究所での研修を経て、2年前にイチゴ栽培を始めました。主な品種は県が開発した「もういっこ」で、17アールのハウスで土耕栽培しています。今後は、高設タイプの養液栽培に切り替えて、作業効率アップと省力化を図りながら、面積の拡大を目指しています。

黒沼さん宅は約18ヘクタールで水田を耕作するほか、冬期間は地元特産の「大根からし巻き」の加工を手掛けていますので、今回、イチゴ部門を取り入れたことで猫の手も借りたい忙しさだそうです。

昨年11月15日(いいイチゴ!)には長男が誕生して四世代7人家族となり「今シーズンは更に美味しいイチゴをたくさん作りたい」と意気込む学さんです。

新年のごあいさつ

宮城県農業会議 会長 中 村 功



あけまして、おめでとうございます。皆様にはご家族お揃いでお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、本県の農業・農村は、米価をはじめ農産物価格の低迷、担い手不足など、依然として厳しい状況にあります。

そうした中で、皆様ご承知のとおり政府は十分な議論のないまま、TPP（環太平洋連携協定）関係国と協議を開始することを決定しました。

私たち農業委員会系統組織としましては、先の宮城県農業委員大会で決議したとおり、農業・農村に壊滅的な打撃を及ぼすTPP参加に断固反対し、運動を強力に展開してまいりますので、関係各位の一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

一方において、「平成の農地改革」のもとで、新制度の適正かつ円滑な実施を推進していくことが私たち系統組織に課せられた最大の課題であります。

宮城県農業会議といたしましても、農地の総量確保と遊休農地解消などに、全力を挙げて取り組む決意を新たにしております。

おわりに、農業を取り巻く環境が大きく変化していますが、皆様の益々のご活躍、ご多幸をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



「TPP交渉への参加反対等を決議」

～ 宮城県農業委員大会 ～

県内の農業委員約700人が一堂に会した「第54回宮城県農業委員大会」が11月24日、大和町「まほろばホール」において、県農林水産部千葉部長をはじめ多くのご来賓にご臨席いただき盛大に開催されました。

大会では、「新たな食料・農業・農村基本計画の実現に関する要望」と「TPP交渉への参加反対に関する要望」について満場一致で決議し、「農地制度の適正執行と農業委員会活動の強化」と「第21回農業委員統一選挙」に関する申し合わせ決議も行われました。

決議事項については、直ちに政府等に要請いたしました。

また、大会宣言として、組織理念に沿って農業・農村の活性化などの重点課題に自らが積極的に取り組み、生産者や地域住民からの理解を深め、期待と信頼に応えていくことを

確認しました。

さらに、「農地制度の適正執行をはじめ求められる農業委員会活動」をテーマに、加美町農業委員会兔原伸一会長および石巻市農業委員会■橋長一郎会長から、改正農地法等を踏まえて全力で取り組んでいる実践事例が報告されました。

当日は、永年、地域農業の振興などに尽力された農業委員・職員の方々の表彰も行われました。



おめでとうございます

本会関係者で次の方々が、このたび表彰の栄に浴されました。

【文化の日県知事表彰】

● 県治功労

中 村 功 氏 県農業会議

● 産業功労

川 田 利 雄 氏 東松島市
一 條 清 次 氏 大河原町
青 柳 俊 一 氏 亘理町

【宮城県農業委員大会表彰】

● 県知事感謝状 (20年以上)

一 條 清 次 氏 大河原町
松 浦 岩 男 氏 名取市
鈴 木 那 彦 氏 多賀城市
角 田 耕 造 氏 松島町
鈴 木 俊 一 氏 利府町
浅 野 一 郎 氏 大衡村
兔 原 伸 一 氏 加美町
広 瀬 宗 夫 氏 涌谷町
佐 瀬 秀 一 氏 美里町
大 場 次 郎 氏 栗原市
山 村 清 氏 東松島市
遠 藤 運 二 氏 女川町
千 葉 十 兵 衛 氏 気仙沼市

● 県農業会議会長表彰 (15年以上)

渥 美 喜 弘 氏 松島町
門 傳 仁 氏 栗原市
平 孝 夫 氏 石巻市
小野寺 清 一 氏 気仙沼市

主張

「“みやぎの食料自給力向上”を みんなで!!」



宮城県農業法人協会

会 長 阿 部 雅 良

[㈲ダイアファーム 代表取締役]

あけましておめでとうございます。

昨年は、猛暑による農産物の品質低下やコメ概算金の大幅下落、また、TPP問題など、農業を取り巻く環境は非常に厳しく目まぐるしいものでありました。

今年は兎年ですが、「兎の登り坂」という諺があります。長い後ろ足で巧みに坂を登ることから、最も得意とする場所で力を振るうことのたとえがあり、物事が早く進むとも言われております。

農業も兎のようにあって欲しいものですが、生命総合産業である農業がその機能や役割を十分発揮するには、消費者の皆さんの理解と支えが必要です。生産者も消費者もお互いウィン・ウインの関係を作ることが大切だと思います。

さて、私たちの組織は、県内の農業法人が経営者間の相互研鑽や情報交換を通じ経営管理能力の向上、政策提言活動など社会的ステイタスの確立を目的に平成8年3月に発足しました。

農業が大きく変化している中で、農業の法人化による経営の効率化が期待されていますが、法人化することが目的ではなく、経営者や構成員の努力で社会的使命や責任を果たすとともに、先導役として地域から必要とされることが最も大切なことだと思っています。

現在、協会の会員数は91社に上っており、「誠意と信頼を築く、みやぎの食料自給力向上」をテーマに活動を展開しております。

“みやぎの食料自給力向上”に向けて共に頑張りましょう！



農と食の未来を拓く 青色申告・集落営
農関係図書も絶賛
発売中です!!
お申込みは市町村農業委員会・県農業会議まで

県担い手協議会コーナー

「農で創る人の絆と地域の力」

第13回全国農業担い手サミット in しまね

昨年11月9日～12日の4日間に亘って、全国から2千名を超える農業担い手が「神話の国」島根県に集い盛会に開催されました。本県からは二瓶幸次県認定農業者連絡協議会長をはじめ16名が参加しました。

10日の全体会では、皇太子殿下のご臨席のもと、特色ある経営を展開している個人、法人、集落営農の3経営体の方が農林水産大臣表彰を受けられました。その後、個人経営体部門で受賞した三重県に加藤勲氏から、大規模水田農業（水稻54ha、大豆43ha、小麦40ha）の実践事例が報告されました。

全体会の最後に、農地を最大限に活用し

た食料生産による我が国の自給率向上、経営体質の強化と創意工夫により持続的に発展する経営体の確立、担い手の「絆」による日本農業の発展と豊かな地域づくりに積極的に取り組む「島根サミット宣言」が満場の拍手で承認されました。

地域交流会では、県内13コースに分かれ現地研修が行われ、中山間地にあつて食の安全・安心をキーワードに生産から加工、流通、販売まで取り組み高い収益をあげている経営体を視察しました。

なお、今年は、長野県で開催される予定ですので、ふるって参加願います。



水稻、野菜、ぶどう、椎茸等に取り組む
農業生産法人(有)はらやま



昼夜の気温較差が大きい中山間地に適したぶどう
(ニューピオーネ)栽培を紹介する法人代表(左)

《宮城県農業担い手サミット 参加者募集》

日 時：平成23年 2月 9日(水) 午後1時～10日(木) 午前11時30分

場 所：松島町「ホテル松島大観荘」

内 容：(9日) ○平成22年度「宮城のいきいきファーマー表彰事業」

○基調講演「TPPとは何か？一東北農業はどうなる一」(仮題)

講師：亜細亜大学アジア研究所 教授 石川 幸一氏

○パネルディスカッション「戸別所得補償によって地域農業はどうなるか」(仮題)

(10日) ○講演「個人経営、法人経営における経営継承を考える」

講師：三重大学大学院生物資源学研究所 准教授 内山 智裕氏

○事例発表 青森県五所川原市

(有)豊心ファーム代表取締役 境谷 博顯氏

(2010年度(第49回)農林水産祭天皇杯受賞(農産部門))

問い合わせ先：詳しくは宮城県認定農業者組織連絡協議会(事務局：県農業会議)までご連絡ください。電話022-275-9164(担当：森下)

「みやぎ食料自給率向上県民運動」標語の入賞作品が決定！

県では「みやぎ食料自給率向上県民運動」を進めており、広く運動に参加してもらうことを目的に新たな標語を募集し、応募があった5,516点の中から、今回、次の3点が入賞作品として選ばれました。

現在、最優秀作品を使用したポスター【右】を県内の学校や公共施設、企業・団体などに掲示しています。

皆さんも食料自給率向上に向けて、一緒に取り組んでいきましょう！

〈最優秀賞〉

「ちょっとだけ 地元びいきの お買いもの」

(柴田郡柴田町 松坂伊久美 様)

〈優秀賞〉

「将来へ おいしいみやぎ つたえよう」

(仙台市青葉区 佐藤英子 様)

「豊富だね 食べるよつくるよ 宮城産」

(仙台市泉区 角浜あけみ 様)



みやぎ食料自給率向上
県民運動啓発ポスター

「伊達の米粉」の普及拡大を目指して

米の消費拡大と水田の有効活用に向けて、お米の新しい食べ方として「米粉」が注目を浴びています。県では、米粉の特徴や魅力を広く知ってもらうために、昨年11月をPR強化月間に設定し、米粉パンやケーキ、麺などの販売店や米粉料理を提供している飲食店が参加して「宮城こめ粉フェア2010」を実施しました。

期間中は約200店舗が「伊達の米粉 見参！」を旗印に、米粉の調理実演・試食会を開催しました。さらに「宮城こめ粉レシピコンテスト2010」を行うなど、各種イベントを積極的に展開してきました。



「宮城こめ粉フェア2010」で米粉食品をPR
(みやぎ生協岩切店)

昨年の県内の米粉用水稲作付面積は約250haと全国第4位で、前年の約5倍となっています。しかし、小麦粉と比較し未だ割高であり、コスト低減や販路の開拓が課題となっています。今後、米粉が一般家庭に普及するように、食文化の一つとして根付いていくような取り組みを行っていきます。

皆さんも、米粉食品のモチットした新食感や風味を、是非、味わってみてください。

【宮城県農林水産部農林水産政策室】

元気みなぎる みやぎの農業に向けて

～ 平成23年度県農業施策に対する建議を実施 ～

県農業会議は、毎年、地域農業の振興・発展に向けて、「現場の声」を汲み上げた政策提案や建議活動に取り組んできております。

今年度は、今日の疲弊した農業・農村を活気づけ、元気みなぎる農業・農村を築き上げるため、地域農業を牽引する意欲ある担い手の育成確保が極めて重要であるという観点から、「担い手の育成・確保」に絞って実施しました。



千葉農林水産部長（左）に建議を手交する
中村会長はじめ役員

建議内容は、認定農業者（農業法人を含む）、集落営農組織、多様な担い手に対する考え方、農業後継者の育成、女性の経営参画の5項目について、市町村農業委員会をはじめ認定農業者や農業法人の方々の意見をもとに、本会農政対策委員会でとりまとめ常任議員会議で決定し、昨年11月9日に村井県知事に対し提出しました。

当日、県からは、「地域農業の振興のため地域の中核となる認定農業者をはじめ集落営農組織や農業法人などを育成・確保していくことが重要です。今後とも意欲ある担い手が経営発展に取り組める制度となるよう、継続して国に働きかけて行きます。また、みやぎの将来ビジョンに「競争力ある農林水産業への転換」を掲げており、それら実現に向けて、これまで以上に担い手を支援していきたい」との回答がありました。

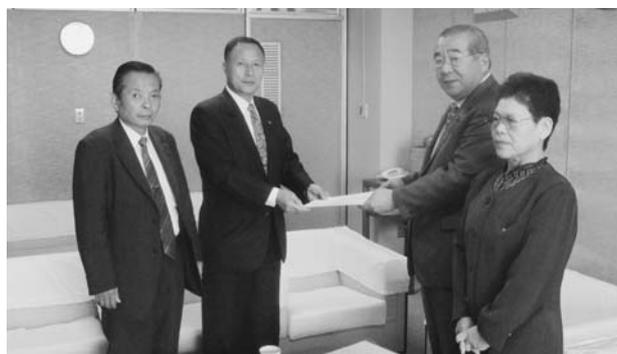
農業委員への 女性の登用促進を要請

県内の女性農業委員等で組織している「みやぎアグリレディス21」（伊藤恵子会長・会員38名）と農業会議は、先般、農業委員への女性登用の促進について要請活動を実施しました。

農業委員会系統組織では、昨年の全国農業委員会会長大会で決定した「第21回農業委員統一選挙に関する特別決議」に基づき、1農業委員会あたり複数の女性委員の選出に向けた取り組みを進めています。

現在、県内の農業委員に占める女性の割合は、全国平均並みの5.0%で、約半数の委員会では女性が一人も登用されていない状況にあります。

今回は、女性委員がいない農業委員会の市町村長及び議会議長に対して、議会からの選任委員の推薦に当たって女性登用への支援をお願いしました。



角田市・玉手議会議長に要請書を手渡す
中村会長とアグリレディス山口副会長

全国農業
新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

食料・農業・農村の危機突破に向けて

全国農業委員会会長代表者集会開催される

昨年12月2日、東京都・九段会館で平成22年度全国農業委員会会長代表者集会が、約1,000名（本県からは20名）が参加し開催されました。

集会では、農林水産省篠原副大臣をはじめ衆・参農林水産委員長の来賓挨拶の後、第1部は食料・農業・農村基本計画実現セミナーとして、「貿易自由化問題と日本農業の進路」について東京大学教授鈴木宣弘氏より講演がありました。

講演の中では、「ゼロ関税にしたからといって農業の競争力は強化されない。また、「農業保護」対「国益」という構図ではなく、農業のみならず金融、医療等、労働者の移動を含むサービス分野まで開放することとなる。マスコミは本当のことを取り扱うべきだ。」、さらに「国民は、自らの食料をどう確保するか認識が必要だ。」、また「ただ反対だけでなく、どうしたら良いか、皆さんの現場が創る農政



が大事ではないでしょうか。」と締めくくった。

第2部は、「食料・農業・農村の危機突破のための政策提案」、「包括的経済連携に関する要請」、及び緊急決議の「総合特区制度（規制改革）に関する緊急要請」について満場一致で了承されました。また、「『新たな農地制度』の着実な実施」と「『情報活動』の強化」に関する申し合わせも決議されました。

なお、当日は、集会決議事項について、本会役員等による本県選出国会議員への要請活動も実施しました。

「農の雇用事業」の採択決定

全国農業会議所が実施する「農の雇用事業」の今年度の第2回募集が行われました。

今回は、全国で約1,100名の応募があり、最終的に611経営体800名が事業採択されました。本県では、16経営体19名が対象となりました。

本事業は、全国農業会議所が、県農業会議と連携し実施しており、農業法人等が新たに雇用して、生産技術や経営ノウハウ等を習得させる研修を行う場合に、研修費用を月97千円までを上限に、最長1年間助成されます。

本県では、今回の採択分を含めてこれまで94名の方が本制度を活用して現場で頑張っています。



※お知らせ※

農業者年金加入推進対策会議

現在2月末までの加入推進強化月間中ですが、目標達成に向けて対策会議を開催します。

- 1月18日(火) 登米市：JA登米豊里支店
- 19日(水) 仙台市：県合同庁舎
- 20日(木) 柴田町：榎木生涯学習センター
- 21日(金) 大崎市：パレットおおさき

農山漁村パートナーシップ推進大会

県主催で2月2日(水)午後0時30分より仙台市民会館で開催されます。

女性のみならず男性の農業委員の皆さんの積極的な参加をお願いします。

新・農業人フェア

新規就農の相談や農業法人の会社説明などのコーナーを設けたイベントが2月19日(土)午前10時30分より仙台サンプラザで開催されます。

かけはし「がんばる農業委員」



栗原市農業委員会 鈴木 春江さん

経営内容：水稲5ha 畑15a 繁殖牛10頭
 レストラン「四季味」(しきみ)の共同経営
 (県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター内)
 就任回数：1期目(選任) アグリレディス21

平成20年に市内の女性指導農業士など8人が、市長・JA組合長等に女性登用を提言し、誕生した3人の女性委員の一人です。3人で昨年度から花山、若柳、築館の三か所で季節の料理教室を開いていますし、更に今年度は2つの幼稚園で親子野菜料理教室を開きました。普段野菜をあまり食べない子供達もおかわりをしたことで嬉しくなりました。また、学校給食に地元野菜等を利用してもらうため給食センターも視察しました。

様々な活動に参加し見聞を広めることは、家業の発展だけでなく、地域農業の振興にとって大切なことです。一つを始めることで次々に活動の場が広がり、世の中のことが分かるし、自分がやりたいことや、やるべきことが分かります。まず一つを始めることが大事です。

女性の社会参画が進み、地域で活躍する女性は増えていますが、まだまだ少ないと感じています。女性が新しい活動に踏み出すためには、家族・地域の理解と協力が必要です。

地域おこしの風

大崎市

「あ・ら・伊達な道の駅」

宮城県と山形県を結ぶ国道47号線は江戸時代からの幹線道で、鳴子や最上温泉郷、紅葉の名所やスキー場があり、一年を通して交通量が多い街道です。道沿いにある「あ・ら・伊達な道の駅」は、「地域の文化を売る」ことを経営理念に、農産物直売所・特産品販売・レストラン・コンビニ・ファーストフードや各テナント工房から構成されています。

メイン施設である農産物直売所では、伊達政宗の時代から引き継がれてきた、岩出山地区の伝統ある食材が数多く並んでいます。260名の農産物出荷組合員は、より多くの産品を提供しようと日々頑張っています。

売れ筋商品は、山菜、なめこ、しいたけ、トマト、なす、キュウリ、しそ巻きや豆腐等で、現在は冬場限定の「凍みっぱなし」が人気商品。



管理運営を行っている第三セクター(株)池月道の駅の大内農林産直売課長は「安全で品質



の良いものを提供出来るように、生産者の研修会を開催していますが、今後は、GAPや農産物認証制度を取り入れていきたい」と話しています。

特産品販売部門では、(株)ロイズのチョコレート製品が人気で、他県から訪れる人も多い。



施設のレイアウトも工夫されており、ついつい購買意欲をそそられてしまう。買い物をした後は、レストランで地域食材を利用した料理を、ゆっくり楽しむのもよい。さすがは年間360万人の来場者がある、国内有数の成功事例の「道の駅」です。